

令和4年度

新潟市立学校園授業改革パイロット事業 実践事例

【課題1】 目指す資質・能力を育成する保育の質的向上

【研究主題】

目指す資質・能力を育成するアプローチカリキュラムの自園化及び保育の実践

新潟市立沼垂幼稚園 園長 青木 博子
研究主任 中村 真紀

1 研究実践の内容

- (1) 文部科学省が推進する「架け橋期カリキュラム」の開発を目指し、新潟市のアプローチカリキュラムを改善，自園化する。主な活動のまとまりについて，実践後に「学びの履歴」として整理するとともに，小学校に示す。小学校との協議を通して，具体的な学びの姿を共有するとともに，5歳児の4月から小学校1年生の3月までの2年間において培う資質・能力の具体的な姿とつながりを共有する。
- (2) 白梅学園大学名誉教授 無藤隆先生，聖徳大学教授 河合優子先生を招聘し，研究保育を実施し，ご指導いただく。研究保育と協議を通して，園が目指す資質・能力を育成するアプローチカリキュラムに基づく，実際の園児の姿を検証する。研究保育と協議会・指導者による講演会はオンラインで配信する。

また，國學院大学教授 田村学様からは，園の目指す資質・能力と実際の保育実践事例を基に，当園のカリキュラムマネジメントについてご指導いただく。

2 実践事例及び成果と課題

(1) 研究保育研修

① 研修会の概要

「園が目指す資質・能力」が育まれている姿，また「10の姿」につながる姿と有効な援助の具体について，そして，保育で見られた子どもの姿から捉えた力が，どのように上の学年へとつながっていくのかについて，3つの保育実践を通して検討した。また，年長組と年中組は無藤隆様から，年少組は河合優子様から保育を参観いただき，「援助や環境構成」の具体について，ご指導をいただいた。

② 研究保育の実践

- i) 第1回研究保育【年中組】令和4年7月8日 指導者：無藤隆先生
- ii) 第2回研究保育【年少組】令和4年11月30日 指導者：河合優子先生
- iii) 第3回研究保育【年長組】令和5年2月1日 指導者：無藤隆先生

※保育指導案は，別紙参照

(2) 講演会

①講演 白梅学園大学 名誉教授 無藤 隆先生

- 乳幼児の遊びの定義、資質・能力、10の姿について
- 幼稚園教育要領の目指す方向や幼小接続架け橋カリキュラムについて、国の方針について

②講演 聖徳大学 教授 河合 優子先生

- 幼児教育において育みたい資質・能力や幼児の学びについて
- 発達や学びをつなぐ幼児教育と小学校教育の接続について

③講演 白梅学園大学 名誉教授 無藤 隆 様

- 幼児期と小学校低学年期の教育の意義や特性、学び方について
- 幼児期と小学校での学びの違いや、架け橋期の特徴、その時期を大切にすることの意義について
- 幼児期と小学校の教育の共通理解、連携のあり方について

(3) 成果と課題

①成果

- 幼稚園教育要領、学習指導要領作成に携わり全国の動向を知っている講師による指導により、当園のカリキュラムを大いに見直すことができた。
- 研究保育では、市内のみならず、全県の国公立幼稚園・こども園、私立幼稚園・こども園、公立保育園、小学校からの参加があった（第1回：75園、第2回：40園、第3回：50校園 *1校園から複数名参加の校園が複数）。
学びの場を提供することで、新潟県内の保育の充実に寄与することができたと考えている。
- 今年度見直しを図った「園の目指す資質・能力」の育成を目指し、それぞれの学年で育てたい資質・能力を明確に描いて意図的、計画的に保育実践を行うことができた。また、3歳から5歳へと育まれていく資質・能力のプロセスについて、大きなまとまりとして見えてきた。カリキュラム編成に生かしていく。
- 小学校と、「学びの履歴」について情報交換、意見交換を行うことを通して、子どもの具体的な学びの姿と教師の指導を学び合うことができた。

②課題

- 園の目指す資質・能力の育成に向けて、子どもの興味・関心を一層大切にしたい質の高い保育を目指し、幼児理解と教材研究を深める。また、園庭や地域などの身近な環境を見つめ直し、カリキュラムの改善につなげる。
- 架け橋カリキュラムの取組において、年長児の「学びの履歴」を更新するとともに、年少児、年中児の「学びの履歴」から、資質・能力のつながりを考える。

年少3歳児 保育案

令和4年11月30日（水）9:00～10:00

【本時のねらい（◎） 内容（○）】

- ◎ 周りの遊びに目を向け、教師や友達と一緒にいることを喜ぶ。
- 偶然居合わせた友達や好きな友達と同じ場で遊んだり、同じことをしたりする。
- なりたいものになって動きや言葉など自分なりの表現をしながら遊ぶ。

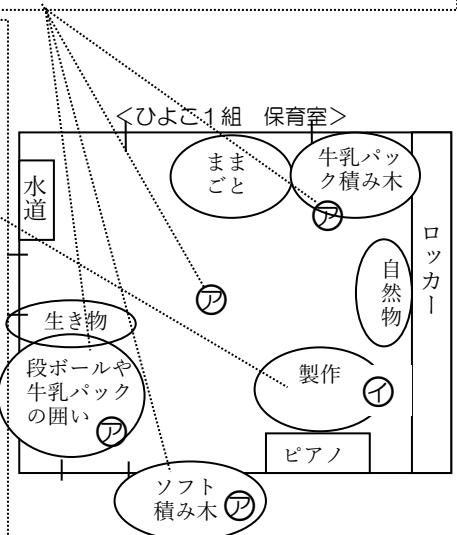
【環境構成・教師の援助】

ア お家や乗り物などに見立てて遊ぶ

- 【物的環境】段ボールの囲い・牛乳パックの囲い(円形・角形)・ソフト積み木 など
- 拠点となるような大き目の段ボールの囲いを置き、その周りに空間をつくっておく。
 - ◆ 段ボールの囲いをお家や乗り物など好きなものに見立てて遊びたい場をつくったり、つくった場で遊ぶことを楽しんだりできるようにする。⇒(安)やりたいことが見付かる(健・自立)
- 自分たちで場をつくったり、つくった場で遊んだりすることを楽しんでいる時には、そばで見守る
 - ◆ 友達の動きや言葉を感じながら遊ぶことができるようにする。⇒(安)教師や友達に親しみをもつ(協)
- 必要に応じて、子どもと同じイメージを共有して応答する。
 - ◆ 教師をよりどころにしながら、偶然居合わせ友達や好きな友達との関わりを楽しんでいくことができるようにする。⇒(安)教師や友達に親しみをもつ(協)

イ 製作

- 【物的環境】廃材・芯材・○△□の色画用紙・プラカップ・紙棒
キャップ・○シール・クレパス・ストロー・人絹リボン
波板段ボール・お面ベルト・紙テープ など
- 廃材や芯材、カップなどを分類し、子どもたちの手の届く場所に
出しておく。子どもの遊びの様子に応じて、十分な量を出せるよう
にする。
 - ◆ 自分なりに組み合わせたりつなげたりしながら、作ったり見
立てたりすることを楽しめるようにする。
 - ◆ 作りたいと思った時に、すぐに作り出せるようにする。
⇒(安)やりたいことが見付かる(健・自立)(考)試したり工夫したり
する(思・数)
- お面ベルトや様々な形、色の画用紙、クレパス、はさみ等を手の
届く場所に置いておく。
 - ◆ なりたいものになったり、友達と同じ物を身に着けたりする
ことを楽しめるようにする。⇒(安)教師や友達に親しみをもつ
(協)



全体

- 子どもの遊びの様子を見ながら、動線を確認し、遊びの場を整理する。(使わなくなった物を片付ける、
子どもの動線を空けるなど)
 - ◆ 遊びの場を自由に行き来したり、友達の遊びが目にとまるようにしたりする。
⇒(安)教師や友達に親しみをもつ(協)
- 友達との関わりの中で、物を取り合う、言い合いになるなどの姿が見られた時には、互いの話を聞き、
言葉にして受け止めながら、どうしたらよいか一緒に考える。
 - ◆ 自分の思いを言葉で表現する、友達の言葉を教師と一緒に聞く、友達の思いに気付くなどの経験
を通して、友達の心地良い関わり方を感じていくことができるようにする。
⇒(共)気持ちや考えを伝える・相手の気持ちに気付く(協・道)

【抽出児について】

- A児： 前日までの遊びの様子から、本児が興味を示して遊び出せるような環境を用意しておく。教師や
友達が遊ぶ様子を見る時間を保障しながらも、友達がF児を誘う、友達の遊びに入りやすい雰囲気
をつくるなど、友達がしていることや持っている物をきっかけに遊び出せるようにする。⇒(安)や
りたいことが見付かる(健・自立)

【評価の視点】

- 偶然居合わせた友達や好きな友達と同じ場で遊んだり、同じことをしたりしていたか。
- なりたいものになって動きや言葉など自分なりの表現をしながら遊んでいたか。

【本時のねらい（◎） 内容（○）】

- ◎ やりたいことを見付け、教師や気の合う友達と一緒に遊ぶ。
- 自分のやりたい遊びを楽しみながら、思い付いたことをしたり、遊びに必要なものを作ったりして遊ぶ。
- 教師や友達のやっていることに興味をもち、まねたり一緒にやろうとしたりする。

【○環境構成と教師の援助】◆意図

㊦ ままごと

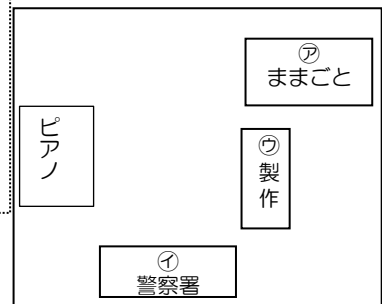
- 今まで作ってきたものの他に、ジュースや金平糖をテーブルの上に置く。
 - ◆ 作ったものをテーブルに置くことで、前日の遊びを想起し、すぐに遊び出せるようにする。⇒㊦やりたいことが見付かる（自）
- 2～3人で遊べるコーナーに縮小する。
- 子ども同士で遊んでいるときは見守り、必要に応じて、同じイメージの中で応答をする。
 - ◆ 同じ場で関わりがもてるよう、友達の動きや言葉に注目しやすいようにする。⇒㊦気持ちや考えを伝える・相手の気持ちに気付く（豊）

㊧ 消防隊や警察官になって遊ぶ

- 前日、子どもが警察署を設置した状態にしておく。
 - ◆ 警察官や消防士になって場を広げたり、必要なものを自分たちで考えて作ったりして遊び出せるようにする。⇒㊦共に取り組み充実感を味わう（豊）
- 子どもの動線を確保し、遊びの場を整理する。（使わなくなった物を片付ける、子どもの動線を空ける）
 - ◆ なりたいものになって保育室やベランダを動いたり、友達の遊びの場と行き来したりしながら遊ぶことができるようにする。⇒㊦共に取り組み充実感を味わう（豊）

<さくら組 保育室>

ベランダ ㊧飼育物



㊨ 製作

- これまでに扱ったことのある素材（キラキラテープ・ストロー・広告棒）や廃材等を分類し、子どもの目に入りやすいところに置く。また、子どもの必要に応じて十分な量を提示できるよう用意する。
 - ◆ 友達と同じものを持ったり、身に付けたりして遊ぶことができるようにするまた、やりたいときにすぐに取り組み、繰り返し遊ぶことができるようにする。⇒㊦試したり工夫したりする（思・豊）

㊩ 飼育物

- 飼育物をベランダに置く。
 - ◆ 生き物を見たり触ったり、餌やりや水替えをしながら生き物に対して親しみを感じていくことができるようにする。⇒㊦いろいろな人・もの・ことに興味・関心をもつ（自）

【抽出児について】

A児：やりたいことを見付けて遊び、さらに友達や教師の様子に関心をもったり、思い付いたことを自分なりに表現したりして遊ぶ。

教師の援助

- 教師がやりたいことやなりたいものを直接聞きながら、一緒に必要なものを用意する。
- 周りの友達の姿が見えるように遊びの場や向きを考える。
 - ◆ 友達のやっていることに興味・関心をもち、同じようなものを作ったり、自分なりに考えたりしたことを実現できるようにする⇒㊦やりたいことが見付かる（健）

年長5歳児ほし組 保育案

令和5年2月1日（水）9:00～10:00

【本時のねらい（◎） 内容（○）】

- ◎ 友達と思いや考えを伝え合いながら新しい目的を見出して取り組み、充実感を味わう。
- 友達と思いや考えを伝え合い、受け入れたり取り入れたりしながら遊ぶ。
- 目的に向かい、試したり工夫したりしながら取り組む。

【環境構成・教師の援助】

翌々日の豆まきの会での影絵劇「ももたろう」発表に向け、同じ役割の友達と表現方法を考えたり、試したりすることができる時間と場を設ける。

⑦ 影絵

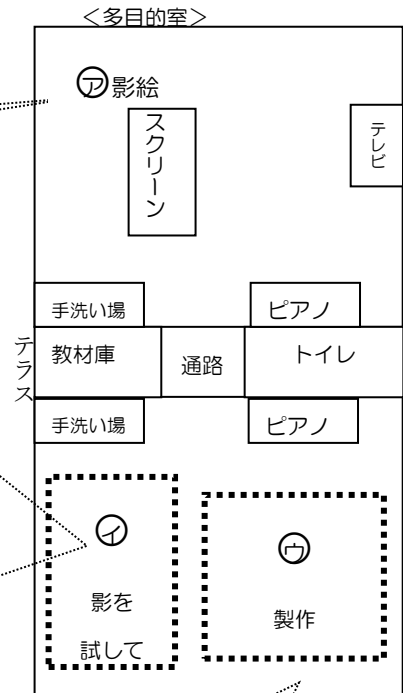
- 保育室隣の多目的室と行き来できるようにする。カーテンを閉めて暗くしておき、当日に使用する大きなスクリーン（白布）と懐中電灯を設置しておく。
- ◆ 学級の友達と実際に表現を見合いながら、互いに考えを出し合ったり試したりすることができるように場を用意する。⇒共に取り組み、充実感を味わう（協・言）

⑧ 影を試して遊ぶ場

- 子どもが扱うことのできる小さな懐中電灯（4）と、小型スクリーンを用意しておく。また、これまでの影遊びの中で、扱った素材をそばに置いておく。
- ◆ 子ども同士で、影の映り方や動かし方を確認したり、試したりすることができるようにする。⇒自分からやってみる（自）
- タブレットを手に取れる場所に置いておき、目的を実現するための手掛かりとなる情報を一緒に調べられるようにする。また、子どもが発見したものや現象（影の映り方）などを、写真や動画で撮影する補助をする。必要に応じて、テレビに映して見る。
- ◆ 子どもが目的へ向かって、諦めずに思考したり試したりするきっかけとなるようにする。また、後に記録したものをみることで、学級の友達とその場面の不思議さや面白さを共有し、新たな気づきのきっかけになるようにする。⇒思い通りにいかなくても諦めない（自・思）

⑨ 製作

- 前日に子どもの必要感から用意しておいた素材や道具などを手に取れる場に置いておく。また、教材棚にはこれまで扱ったことのあるものを手に取れるように置いておく。
- 紙類…薄い素材や厚い素材・光る素材・透明な素材等
- 接着道具…セロハンテープ・養生テープ・ガムテープ・ホチキス・ボンド・ラピーテープ・割ピン・輪ゴム等
- 紐類…タコ糸・テグス・毛糸・人絹リボン・スズランテープ・白ゴム・テープ等
- ◆ 自分たちで考え、遊びに必要なものを探したり選んだりすることができるようにする。⇒自分からやってみる（自・思）



＜ほし組 保育室＞

【抽出児A児について】

本児が同じ役割の友達と一緒に、試したいことができるよう、必要な素材や道具と一緒に探したり、手に取れる所に置いたりする。友達と一緒に、試しながら遊ぶことができる時間を保障する。

影絵劇に取り組む中で、表現がうまくいかない場面や「もっとこうしたい」という新しい目的ができた時に、考え合う時間を設ける。その中で、本児の気付いたことや思い付いたことを、周りに伝えるきっかけをつくったり、本児が周りの友達の発想にも耳を傾けることができるよう、教師も仲間の一人として、言葉を補ったり分かりやすく言い換えたりして支える。

⇒共に取り組み、充実感を味わう（協・思・言）

【評価の視点】

- 友達と思いや考えを伝え合い、受け入れたり取り入れたりしながら遊んでいたか。
- 目的に向かい、試したり工夫したりしながら取り組んでいたか。